

沖縄返還協定調印 40 周年記念日にあたってのご挨拶

本日は、今からちょうど40年前、日米両国政府間で沖縄返還協定が調印された記念日であります。

昭和天皇は、絶えず沖縄に関心を寄せられました。昭和天皇の御霊（みたま）に対し感謝申し上げますとともに、陛下のご意志を呈し、沖縄返還交渉に尽力されました内閣総理大臣 故・佐藤栄作氏の御霊に、また御礼申し上げます。

戦後、わが国は敗戦による精神的痛手と、国土が焦土と化したにも拘わらず、我が国民の努力と、靖国の英霊のご加護により、見事に復興を果たし、世界屈指の経済大国に成長致しました。

この結果、戦争で失陥した国土を外交交渉のみで取り返すと言う歴史的快挙を果たしたのであります。

ところで中国共産党は近年、「この返還協定は国際法上違法であり、沖縄の主権は国際法上未確定である」と批判し、沖縄領有を示唆しております。

皆様、共産主義がいかにか人間を冒瀆するシステムであるか、かつての琉球王国を見ればおわかり頂けると思います。

約400年間続いた共産主義専制君主制は、人民の生産拡大意欲を阻害し、婚姻の自由さえ束縛したものでした、これは廃藩置県によって解体されましたが、今なお県民は遺伝子異常の発生に悩まされているのであります。

加えてわが国の左翼勢力は、沖縄返還記念日を「屈辱の日」と断じ、「返還協定に際しては密約があった」と批判し、中国共産党に対し利敵行為を働いております。

とくにこの活動の中核を担う琉球大学のG教授は、恩知らずも甚だしい男であります。

ここで同盟国米国の沖縄統治の実態についても申し上げたいと思います。

在沖縄米軍政府は、27年間にわたって沖縄を統治したのでありますが、わが国の潜在主権を尊重し、また沖縄戦で奮戦した帝国陸海軍将兵に絶えず敬意を表しておりました。

占領直後、米軍政府は裸足で生活する習慣があった県民に同情し、靴を支給し、また沖縄史上初の琉球大学を創立し、約10000人以上の県民に大学教育を実施した他、看護学校を設立し、公衆衛生システムを確立したのであります。

この結果、戦前、感染症のデパートと言われた沖縄ではありましたが、米軍政府によって沖縄返還までに、この感染症のほとんどが征圧されたのであります。現在、人口は138万人を突破し、戦前人口のピーク59万人口（昭和12年）の2倍以上を越えている所以がここに有ります。

ところで、来年5月15日は、沖縄返還40周年を迎えます。

我々県民は、日米両国国民に感謝を表し、日米友好の礎たるべく決意を新たにして行きたいと思っております。

これに際し来年はここに超党派であらゆる政党が結集し、また学識経験者が参列し盛大な式典を挙げて行きたいと思っております。

このため、国民に、沖縄問題、安全保障政策への意識を新たにするため啓蒙活動を行って行きたいと思っております。そのために、各地で写真展、講演活動を行って行きたいと思っております。

引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後に本日は雨天にかかわらず、全国からここにお集まり頂きました皆様に県民を代表し感謝申し上げます。あつく、あつく御礼申し上げます。

平成23年6月17日

「日本を守り抜く！ 国民集会」

実行委員長 惠隆之介